



独立行政法人国立病院機構 横浜医療センター広報誌

2025
冬

はらじゆくかわら版



<YMC NEWS / 看護学校だより>

「北海道で出会ったシマエナガ」放射線科職員 撮影

初春を迎えて

国立病院機構横浜医療センター院長 宇治原 誠



あけましておめでとうございます。初春のご挨拶を申し上げます。

当院は昨年4月に「病院の理念」を「最適な医療を提供し、地域に信頼され共に発展する基幹病院として社会に貢献します」に変更しました。常に医療機能を更新し、最適な医療を地域の皆様に提供することで信頼と期待を得ることを新理念としたのです。

昨年は、4月に地域がん診療連携拠点病院の認可を取得し、12月には手術室の増室を行い、また放射線照射治療装置を新機種に更新し、がん治療の増強をはかりました。手術室の増設は、がん以外の手術も含めて、手術数を増加させることが可能になりました。今年5月にはロボット手術を開始します。また眼科の外来注射室を新設し、この1月から運用を開始しますが、これによりこれまで手術室で行っていた眼科の注射療法を外来で行うことが可能になり、手術室の混雑も緩和できるようになります。

4月に重症治療室(HCU)を新設します。これまで集中治療室(ICU)や冠状動脈疾患集中治療室(CCU)で行っていた重症患者に対する集中治療を補完することになります。さらに脳卒中集中治療室(SCU)をこれまでの6床から9床に増床します。

この他、医療機器は順次、更新、新規導入します。またソフト面では、職員の研修を常に促進し、医療DXを導入し、医療情報のデジタル化をはかり、効率化とともに最適で安全な医療を今後も追求していきます。

新理念のもと、当院は努力、精進してまいります。引き続きご支援、ご協力をよろしく願います。

YouTubeでは、院長のインタビュー動画を配信中です。ぜひご覧ください。



今年もシンボルツリーのライトアップを実施中です

横浜医療センターの「冬の風物詩」となっているシンボルツリーのライトアップを実施しています。

キュッと締まった空気の中で、キラキラと輝きを放っています。

先日、小さなお子さんを連れた家族が「わぁ！キラキラしてきれいだね」とシンボルツリーを見ながら会話を交わしていました。

とても微笑ましく、心が温かくなりました。

ライトアップは2025年2月末頃までを予定しています。



医師会長挨拶

一般社団法人戸塚区医師会会長 三木 英之
(医療法人紺医会 とつか西口整形外科院長)



新年あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。横浜医療センターの職員の皆様には、日頃より戸塚区医師会にご協力をいただき、誠にありがとうございます。

昨年1月1日に、石川県能登半島を震源とする地震が発生しました。8月8日には、日向灘を震源とする地震があり、政府から南海トラフ地震の発生可能性が、平常時より相対的に高まっているとして、臨時情報(巨大地震注意)が発表され、8月15日に呼びかけは終了となりました。政府の地震調査委員会は2024年1月、南海トラフ周辺で今後M8.0~9.0の巨大地震が発生する確率を、10年以内では「30%程度」、30年以内では「70~80%程度」、50年以内では「90%程度もしくはそれ以上」と発表しています。

戸塚区医師会の活動目的は、地域の人々の健康と生命を守ることです。災害が発生したときにも、地域の人々の健康と生命を守ることを第一に行動しなければならないことは、言うまでもありません。そのために、戸塚区医師会は、戸塚区役所はじめ警察、消防などの行政、戸塚区歯科医師会、戸塚区薬剤師会、関係諸団体などとともに、日頃から災害が発生したときの行動指針を話し合うために、年に2回、戸塚区役所で災害医療連絡会議を開催しています。さらに12月にEMIS操作研修、2月に医療救護隊訓練を行い、災害時に迅速に行動できるように訓練を行っています。診療でお忙しい中、神奈川県災害医療拠点病院である横浜医療センターの救命救急センター長の古谷良輔先生と副センター長の大塚剛先生、そしてDMAT隊員の吉田敦救急救命士に、講師としてお越しいただいております。紙面をお借りして、3名の先生方に改めて御礼申し上げます。

「備えあれば憂いなし」と言いますが、災害に対する備えに終わりはありません。そのためには、日々継続して訓練を続けていくことが必要です。区役所と戸塚区内の各病院とは奇数月に、区役所と医師会事務局とは偶数月に、それぞれ隔月でMCA無線と衛星携帯電話の接続訓練を行っています。今後ともいつ起こるかかわからない災害に対し、気を緩めることなく訓練に精進していきましょう。

新しい年が皆様方にとって、充実した幸多き年となりますことをご祈念申し上げます。
本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

マイナンバーカードの健康保険証利用登録はお済みですか？



2024年12月2日に現行の健康保険証の新規発行が終了し、マイナンバーカードの利用を基本とする仕組みに移行します。もしものときにも、マイナンバーカードがあればこれまでの医療情報などが正確に伝わるので、適切な処置につながります。病院でも、薬局でも、マイナンバーカードを利用しましょう。

YMC NEWS

“病病・病診連携のつどい”を開催しました

2024年11月27日に、地域の医療機関等の方々をお招きして「病病・病診連携のつどい」を開催しました。医療機関等との連携強化のため、毎年開催していましたが、コロナ禍には中止となり、昨年から再開されました。

当院の宇治原院長より、地域の医療機関等から紹介のあった患者数の報告や、当院の現状などを説明しました。4月に認定された「地域がん診療連携拠点病院」のことや、コロナ後の病院の様子についてもお話がありました。



2025年には手術ロボットの導入予定があるため、泌尿器科部長の平井医師によるロボット手術の種類や方法などの説明が行われました。近年はより侵襲の少ない手術を希望される患者さんも増えています。地域のニーズに応えられる医療センターとして、今後もさまざまな施策に取り組んでまいります。

緩和ケア研修会を開催しました

2024年12月8日に、当院主催の緩和ケア研修会を開催しました。基本的な緩和ケアについて正しく理解し、緩和ケアに関する知識、技術、態度を修得することで、緩和ケアが診断の時から、適切に提供されることを目的としています。

受講生は事前に所定のe-learningを修了した上で、(集合)研修会に参加します。

緩和ケアの指導者による講義、患者、家族、医者役割をもって行うロールプレイ、緩和ケアについて深掘りするグループワークなど、さまざまな研修を1日かけて受講して修了となります。修了者には厚生労働省健康局長から修了証が交付されます。



リニアックを更新しました

2010年当院改築時に設置された放射線治療装置リニアックを2024年12月に更新しました。スマートホン等と同様 Dx（デジタルトランスフォーメーション）により著しい改良がなされ、正確で安全な放射線治療が可能となりました。（ピンポイントやマーカーレスだけでなく、複数脳病変のピンポイント照射も通院で治療時間は約20分です。）



当院の装置は今後近隣のがん専門病院にも導入予定で、通常のがん患者さんの90%以上で、当院で最高水準の放射線治療が可能です。昨今のがん治療の中で、放射線治療の半数以上は根治目的で行われています。特に用いられる乳がん、前立腺がんは近年増加傾向が著しく、どちらも日本全体で年間約10万人です。当院でも乳がんは乳房温存療法として手術+放射線治療が主体で、前立腺がんは手術と全く同等の治療率（90%以上）であるため、高齢者を中心に日常生活を保ちながら通院治療を以前の半分の治療期間20回で行っています。

それ以外にも臓器温存目的の放射線治療が増加しています。勿論がんに伴う症状を緩和する放射線治療も正確に行う為治療回数は減少し、副作用もほぼ生じない為、通院での緩和目的照射も多数です。自宅に近い当院での放射線治療はお勧めです。

乳房再建エキスパンダー&インプラントの実施施設認定を取得しました

「乳癌および乳腺腫瘍術後の乳房再建を目的としたゲル充填人工乳房および皮膚拡張器に関する使用要件基準」に基づき、日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会による実施施設認定の審査が行われます。

ブレスト・インプラント（シリコンゲル充填人工乳房）や乳房再建用ティッシュ・エキスパンダー（皮膚拡張器）は適正使用の観点から、承認条件として「関連学会と連携の上、実施施設基準、実施医師基準を設け、乳房再建術または乳房増大術に関連する十分な知識と経験を有する医師により、同術の実施体制が整った医療機関において本品が使用されるよう、必要な措置を講ずること」などが求められています。

当院の医師も認定に必要な講習を受講、審査を経て乳房再建術の実施施設認定を受けました。乳腺外科医と形成外科医が連携し、患者さんのQOL（Quality of Life（クオリティ オブ ライフ） 人生の質）の向上に寄与します。



リハビリ通信

杖は正しく使えていますか？

ふらつきやひざの痛みなど日常生活における歩行で困ったとき、まず手軽に購入できる杖を持つことを考えるのではないのでしょうか。

街を見渡すと、杖について歩いている人が多くいますが、時々間違っ使っている人を見かけます。

今回は、そんな身近な杖を正しくつく方法をお教えします。正しく使うだけで歩きやすくなる人も出てくるはずですよ！

・杖にもいろんな種類がありますが、一番オーソドックスなものが右のT字杖です。一般的には伸縮するものや折り畳みができるものがあります。

・杖は、悪い足と逆の手で持つことが安定して使う方法です。悪い足と同じ手に持つと、手と足が一緒に出てしまい不安定になってしまいます。

・よくある間違いとして握り方があります。右の図のようにまえに指をかけるか添えるようにしておくことで安定してつづることができます。

杖の持ち方



T字杖

長さ調節の目安

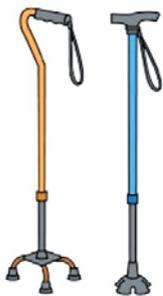


・杖の長さはとても重要で長すぎても、短すぎても、手に力が入らず安定しません。左の図のように肘を軽く曲げて持つ側の足から20cm前方外側の位置が正しい長さです。

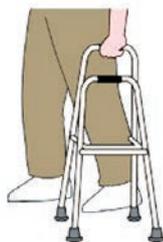
・計算で求めるときには、身長×0.5+2~3センチというものもあります。

その他にもその人の病状にあった杖の選択が必要です。ご自分の身体機能にあった歩行補助具を選ぶことが必要となってきます。T字杖では歩行に不自由を感じた際は検討してみることをお勧めします。

いろいろな杖



4点杖



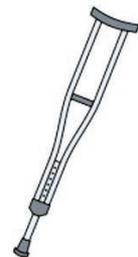
サイドケイン



ロフスタンドクラッチ



ポール



松葉杖

看護学校だより

横浜医療センター附属横浜看護学校

🎄 学生自治会主催 クリスマス交流会を行いました 🎄

私たちは入院している患者さんに、感謝の気持ちを伝えるとともに、季節感を味わっていただくためにクリスマス交流会を企画しました。

患者さんへお渡しするクリスマスカードの作成は4月から準備を始めました。カードは、レースペーパーでクリスマスツリーのモチーフを作り、大人っぽく、小さなお子さんにもかわいい！と思ってもらえるデザインにしました。12月20日にクリスマスカードを直接お渡しし、デイルームでクリスマスソングと一緒に歌う交流会を行うことで、患者さんの笑顔を見ることができ、私たちにとっても素敵な時間となりました★

学生自治会 クリスマス委員会 委員長 小川 暖瑠



クリスマスカード



令和7年度入学生募集

一般入学者選抜

試験	日程
Y2日程	令和7年2月 6日(木)
Y3日程	令和7年2月28日(金)
Y4日程	令和7年3月12日(水)

試験科目：国語、面接

募集要項はこちら→



確かな知識と技術を身につけた
地域に貢献できる看護師になりませんか

学校説明会

日程：

令和7年3月22日(土) 10時から12時
令和7年3月22日(土) 14時から16時

詳細・申込はこちら→



あなたの未来がここに 있습니다
アットホームな雰囲気の中で
看護学生体験をしてみませんか

《診療のご案内》

* 当院は完全紹介制です。初診の場合はかかりつけ医等からの紹介状が必要です *

・ 初診受付時間は、午前8:30~10:30です。下記診療科以外は予約なしで受診できます。

＜初診時予約が必要な診療科＞

精神科、乳腺外科、緩和ケア内科、産科、呼吸器内科、脳神経内科

※ 当院で分娩を希望される方で、他院に受診が無い方は予約・紹介状なしでも受診できます※

・ 診察の予約や、CT・MRI等の検査予約は、かかりつけ医にご依頼ください。

(患者さんからの予約は受け付けておりません)

・ あらかじめ当院ホームページ等で休診情報、外来担当医表をご確認ください。



《交通アクセス》

【路線バスでお越しの場合】

・ 戸塚駅から

戸塚駅西口バスセンター2番のりばから
神奈中バス戸50、戸51、戸52、戸55、
戸56系統に乗車

・ 大船駅から

大船駅西口5番のりばから神奈中バス
船21、船22、船24、船25系統に乗車

・ 藤沢駅から

藤沢駅北口5番のりばから
神奈中バス藤54、藤55系統に乗車

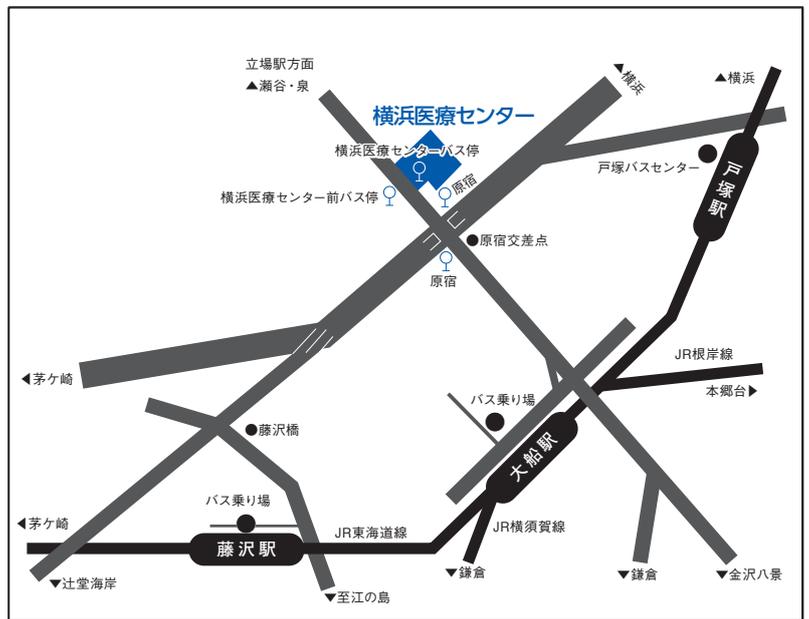
・ 立場駅から

立場バスターミナル4番のりばから
神奈中バス船21、船22系統に乗車

※ いずれも「横浜医療センター前」または
「横浜医療センター」下車

※ 大船駅東口から小型乗合バス「こすずめ号」で
「横浜医療センター」下車 (平日昼のみ)

* 横浜市戸塚区原宿 3-6 0-2



【車でお越しの場合】

国道1号・原宿交差点から環状四号線を北方向に進みすぐ。

瀬谷・泉方面からは環状四号線を大船方面に進み、原宿交差点手前。駐車場555台 (有料) あり。



《病院理念》

最適な医療を提供し、地域に信頼され共に発展する基幹病院として社会に貢献します。

＜基本方針＞

1. 患者さんの人権を尊重し、信頼関係に基づいた、安全で良質な医療を提供します
2. 地域の医療機関と密接に連携し、地域完結型医療の中心的役割を担います
3. 職員の教育研修の充実を図り、能力向上と人材育成に努めます
4. 臨床研究に積極的に取り組み、医療水準の向上に貢献します
5. 職員が自らの成長を実感できる、働きがいとなる病院をつくります
6. 健全な病院経営に務め、安定して持続可能な運営を目指します



独立行政法人 国立病院機構

横浜医療センター はらじゅくかわら版



<https://yokohama.hosp.go.jp/>



発行日：2025年2月 (第86号)

発行行：横浜市戸塚区原宿3-60-2

横浜医療センター広報委員会

発行責任者：宇治原 誠

横浜医療センター病院ブログ

<https://yokohama.hosp.go.jp/blog/index.html>

